

「ボッチャ」でパラ目指せ

東洋学園大にサークル誕生

文京区の東洋学園大に、障害者スポーツ「ボッチャ」のサークルが誕生した。ボッチャの大学サークルは珍しいという。今後、パラリンピック出場に挑戦するほか、競技普及にも取り組む。

サークル結成の呼びかけ人は、同大人間科学部4年の木村駿汰さん(24)。脳性まひのため車いすの木村さんは、大学2年の時に区内の五輪・パラリンピ

ック推進イベントに携わり「障害の有無に関わらず誰でも楽しめる」とボッチャに魅了された。3年の時、大先輩から車いすの学生3人が入学すると聞き、所属ゼミの渋谷智久准教授(43)の協力も得て3人を勧誘。健常者の友人を加えたり人で、今春サークルを設立した。

3人はグローバル・コミュニケーション学部1年の市川樹伸さん(18)、現代経営学部同の春原祐弥さん(19)、人間科学部同の橋本昂典さん(19)。市川さんと春原さんはボッチャ経験者で「相手の戦略を読むところが競技の魅力。ボッチャ普及に



も力を入れたい」と意気込む。初心者の橋本さんも「練習してチー

ム力を磨きたい」と気合十分だ。週2回、校内で練習を行い、まず

は公式戦出場と初勝利を目指す。

ボッチャは赤と青の

革製ボールを投げ、的となる白い球にいかに近づけるかを競う。個人戦と団体戦があり、パラリンピックの正式種目となっている。

【丸山仁見】

ボッチャサークルに所属する(前列左から)市川樹伸さん、木村駿汰さん、橋本昂典さん、春原祐弥さん―東洋学園大提供